

Model 02

内閣府
賞勳局審査官付栄典専門職



おちあい ともこ
落合 智子
Tomoko Ochiai

何事にも

内閣府の仕事

私は、結婚・出産後も定年まで働き続けたいという気持ちから、転居を伴う異動が少ない内閣府へ入府しました。また、内閣府は、「国政上重要な政策に関する企画立案・総合調整」及び「内閣総理大臣が直接担当することがふさわしい業務」の主に二つの役割を担っているため、経済財政政策、科学技術政策、地方創生、防災、男女共同参画など注目度の高い業務に携わる機会が多いほか、栄典、政府広報など内閣府ならではの業務に携わることができることも魅力でした。

現在、私は賞勳局に在籍し、栄典に関する業務を担当しています。栄典とは、国家・公共に対し功労のある方や社会の各分野における優れた行いのある方などに、勲章や褒章を授与し、表彰するものです。我が国の栄典制度は、長い歴史と伝統を有し、その授与は、憲法において天皇の国事行為に位置付けられています。例えば、ボランティアや人命救助など金銭では評価できないような功績に対して栄誉を称えたり、少子高齢社会を支える保育士、介護職員等の国全体の利益のために重視すべき分野で御活躍されている方々に対して積極的に栄誉を称えたり、褒めるという行為で光を当てています。

具体的な業務としては、各府省から推薦される候補者に対して、功績に応じた勲章等が授与されるよう審査を行っています。各府省から推薦された候補者を審査しながら、社会が様々な方の御活躍により成り立っていることを実感しています。自分に馴染みのない分野における功績を審査することに、正直難しさを感じることもありますが、栄典の重みを感じつつ、受章者はもちろん国民から広く支持される栄典のため、適切な審査を心掛けています。

挑戦する勇気！

内閣官房内閣総務官室での経験

入府7年目で、内閣官房へ出向しました。内閣官房は、内閣と官邸を直接支える組織であり、官邸の動きを間近に感じながら、国の最前線の業務に携わることができます。私は、内閣官房にある内閣総務官室に在籍し、主に、内閣が意思決定を行う場である閣議が円滑に行われるための業務を担当していました。閣議決定する文書を扱うため、緊張感を伴う業務が多かったですが、内閣府以外の施策を知ることができたり、組閣・内閣改造や内閣として大きな判断が下される過程を間近で見ることができたり、非常にやりがいを感じる貴重な経験をさせていただきました。内閣総務官室には、内閣府職員が多く出向しているため、ここでも内閣府職員ならではの経験ができたと思っています。

今後の目標

私は平成28年3月に結婚しましたが、定年まで働き続けたいという入府当初からの気持ちは、今でも変わっていません。休日も仕事のことを考えてしまうほど、目の前の仕事にいっぱいいな時期もありましたが、勤続年数とともに経験も増えて、仕事に対する向き合い方の変化に、自分なりの成長を感じることもできました。これからは、様々なライフイベントを通じて、人間としての幅を広げることができればと自分自身に期待しています。仕事以外での活動や人とのつながりから、様々

な立場に立つことができますし、これまで考えも及ばなかったことに気付くことができるかもしれません。何事にも挑戦する勇気を持ち続けて、得た知識や経験を、女性活躍、少子化対策、男女共同参画等、多岐にわたる分野を担当する内閣府において、活かすことができるようになりたいと考えています。



一日のタイムスケジュール例

- 6:30 起床、朝食・お弁当作り
- 8:30 出勤、新聞チェック
- 9:30 始業、メールチェック、スケジュール確認
- 10:00 午後からのヒアリングの準備(上司と問題点を共有)
- 12:00 昼食
- 13:00 ヒアリング
- 15:00 ヒアリングで出た課題の整理
- 16:00 協議書類の審査
- 18:15 定時退庁
- 19:30 ヨガ
- 21:30 帰宅、夕食、入浴
- 23:30 就寝

女性職員へのメッセージ

体調が悪かったり、御家庭の事情を抱えていたり、毎日みんなが仕事に全力投球できるコンディションとは限らないため、自分自身も周りへの気遣いを忘れず、日頃から信頼し合える関係を築いていければと思っています。